

## 塗布型浸透性防水剤

## ハイドロモルタルE X

ハイドロモルタルE Xは、従来の無機質型、または一液性樹脂との組み合わせによる塗布型浸透性防水剤とは異なり、二液反応硬化型水系エポキシ樹脂と、専用に開発された活性化シリカフィラーを主成分とする特殊無機質パウダーとの複合反応機構を効果的に作用させ、従来の防水剤では果たされなかった新しい分野での利用を可能とした画期的な浸透性防水剤です。

### 特 長

- 防水効果が高く、耐久性に優れる  
ハイドロモルタルE Xの被覆層は、透水抵抗が極めて大きく、従来の塗布型浸透性防水剤に比べて中性化に対する抵抗性も格段に優れています。水系エポキシ樹脂と活性化シリカフィラーの複合反応はコンクリートの表層部を緻密化すると共に一体化しコンクリート構造物の耐久性を大きく向上させます。
- アルカリ分の析出が少ない  
従来品の塗布型浸透性防水剤によくみられるアルカリ分の析出が少なく、上塗り施工が容易です。
- 接着強度に優れる  
水系エポキシ樹脂のはたらきにより接着強さに抜群の性能を発揮します。
- コンクリート構造物の乾燥面にも施工可能  
これまで塗布型浸透性防水剤では対応できなかったコンクリートの乾燥面に対してもドライアウトを起こすことなく防水性能を発揮します。
- 水養生が不要  
施工後の水養生を必要とせず、十分な防水性能を発揮します。
- 施工作業性に優れる  
施工条件に合わせて、コテ塗り、吹付と施工方法を選ぶことができ優れた作業性を発揮します。

### 用 途

- 建築関係  
地下壁、基礎、受水槽、各種ピット、工場など
- 土木関係  
各種隧道覆工面、地下鉄、各種ピットなど
- 上下水道関連施設  
浄水場、下水処理場、農業集落排水処理、し尿処理施設など
- その他  
塩害保護を必要とするコンクリート構造物  
(海岸線の橋梁、高速道路、高架鉄道など)

### 使 用 方 法

1. 施工面の汚れ、レイトンス、突起物などをサンダーにて除去し清浄にします。  
セパ・打継部・クラック・漏水は予め処理して下さい。
2. 混練容器（20L以上）に樹脂液の基剤と硬化剤を加え攪拌機を用いて十分に攪拌したのちに、攪拌機を回しながらパウダーを徐々に加え、全体が均一になるまで十分に練りあげます。
3. 塗布面に水たまりや水滴がある場合は、予めウエス等で除去してから施工して下さい。  
塗布面が乾燥し、下地への吸水が多い場合には、噴霧器などで下地を湿らせると作業がしやすくなります。ただし、浮き水などが無いようにご注意下さい。
4. 特別な養生は必要ありませんが、接水面に使用する場合は3日間（20℃）以上の放置養生が効果的です。  
初期硬化4時間（20℃）までに降雨した場合は施工面が損傷を受けますので注意して下さい。

### 荷 姿

○18 kg／セット

|                 |         |
|-----------------|---------|
| 水系エポキシ樹脂 基剤     | 1.5 kg  |
| 水系エポキシ樹脂 硬化剤    | 4.5 kg  |
| ハイドロモルタルE Xパウダー | 12.0 kg |



### 標 準 仕 様

| 塗布方法  | コテ塗り           | 吹付け塗り              |
|-------|----------------|--------------------|
| 標準塗布量 | 1.0 kg／㎡(2回塗り) | 1.0～1.5 kg／㎡(1回塗り) |

### 使用上の注意事項

- 吸入したり皮膚に触れたりすると中毒やかぶれを起こす恐れがありますので、取り扱いには下記の注意事項及び製品ラベルの注意事項を守って下さい。詳細な内容が必要な場合は、安全データシート（SDS）をご参照下さい。
  - 皮膚に触れないように保護手袋（ゴム手袋）等の保護具を着用する。
  - 換気の良い場所で取り扱う。
  - 屋内で取り扱う場合は、換気に注意する。
  - 破損等につながるような粗暴な取り扱いをしない。
  - 容器はその都度密閉する。
  - 皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、目に入らぬよう保護具を着用する。
  - 目、皮膚等への接触をさけるため、適切な保護具（保護手袋、保護長靴、保護眼鏡、防塵マスク等）を着用する。
  - 取り扱い後は、顔、手、口等を水洗する。
  - 粉塵を吸引してはならない。
  - アルカリ性なので、酸性の製品との接触をさける。
  - 過去にアレルギー症状を経験している人は取り扱わないこと。
- ※その他安全対策、応急処置に関してはSDSをご参照下さい。

### 可使時間・配合比

| 可使時間 | 25℃                      | 1 時間      |
|------|--------------------------|-----------|
|      | 15℃                      | 1 時間 30 分 |
| 配合比  | 基剤：硬化剤：粉体 = 1.5：4.5：12.0 |           |

### 物 性・性 能

| 項 目    | 品 質 規 格                                                     | 結 果 |
|--------|-------------------------------------------------------------|-----|
| 接着強さ   | 標準状態 1.0N/mm <sup>2</sup> 以上<br>浸漬後 1.0N/mm <sup>2</sup> 以上 | 適合  |
| 耐ひびわれ性 | ひびわれが発生しないこと                                                | 適合  |
| 耐衝撃性   | われ、はがれがないこと                                                 | 適合  |
| 耐久性    | われ、ふくれ、はがれがなく接着強さが 0.8N/mm <sup>2</sup> 以上                  | 適合  |
| 透水性    | 透水量が 0.2g 以下                                                | 適合  |
| 耐酸性    | pH4 の硫酸溶液に 30 日間浸漬しても外観に異常がないこと                             | 適合  |

※一般社団法人 地域環境資源センター農業集落排水処理施設のコンクリート防食の手引き  
エポキシエマルジョンを混和剤とする無機質浸透性防水材の品質規格